

中国の金融市場インフラ整備と日本の経験

経済調査部長 絹川 直良

東アジアの債券市場を中心とした金融市場のインフラ整備の動きが話題になることが多くなったが、これは日本の具体的経験を生かすことのできる可能性が極めて高い分野である。

発展途上国の金融市場整備にあたっては欧米特に米国の金融市場がモデルとして取り上げられることが多い。オーストラリアは、アジア通貨危機に際して一部の東アジア諸国より随分頼りにされたが、金融市場のインフラが極めて整っているだけでなく、英語でのコミュニケーションが容易であることがオーストラリアにはプラスに働いていると思われる。一方、日本は、90年代後半に金融機関や証券会社のプレゼンスが大きく低下し海外からの関心も薄れたのではないだろうか。英語で入手できる資料が少ないことも日本のハンディだろう。

しかし、例えば、中国が今後どのように金融市場の整備・自由化を行うべきかを考える際には、日本の経験の具体的活用を考えることが十分に可能である。中国は、WTO加盟に伴うコミットメントを果たす形で市場開放、自由化を進めることになったが、日米円・ドル委員会に示されるように外圧がきっかけとなって市場開放、自由化を迫られた80年代の日本と一面では似通った状況にある。実際に、日本の金融市場整備特にインターバンク資金市場の整備や金利自由化が進められたのは80年代後半であった。

中国の場合、通貨制度や資本取引自由化に加えて金融調節手段の整備や金利自由化推進を含め、より広い視点から、漸進的・段階的にかつスピード感を失うことなく金融市場インフラの整備を進める必要がある。この点、中国のおかれた事情を理解し、日本の経験から色々アドバイスをしていく領域はいくつかあると思われる。

日本では、資本取引の自由化が先行し、為替相場が大きく変動し、これに遅れて預金金利自由化や国内のインターバンク資金市場の整備が進められた。幸い、為替相場の変動は企業の合理化努力や海外への生産移転で吸収され、国内金融市場の整備も大きな障害なく進められた。ユーロ円資金市場にも、程なく日本国内の金融調節の影響が及んでいった。しかし、日本でも預金金利自由化の過程で大量の資金移動が生じたし更にその移動は大規模なものたり得た。ここで万一にも金融機関の信用不安が広がったり、あるいは予想以上に早いタイミングで金融引き締めが必要が生じていれば、一連の金融市場整備が頓挫する可能性が十二分にあったといえよう。

このように、日本の経験には中国が参考とすることができるいくつかの経験が含まれている。日本と中国の間の共通点と相違点を十分考慮し、中国に相応しい処方箋を検討することは、容易な作業ではないが十分可能であろう。幸いに、日本の金融当局関係者

や民間の市場参加者の中には、そういった経験・ノウハウがまだ残っている。これらを動員し、中国の金融市場参加者との間で議論を深めることができると考えている。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2004 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>